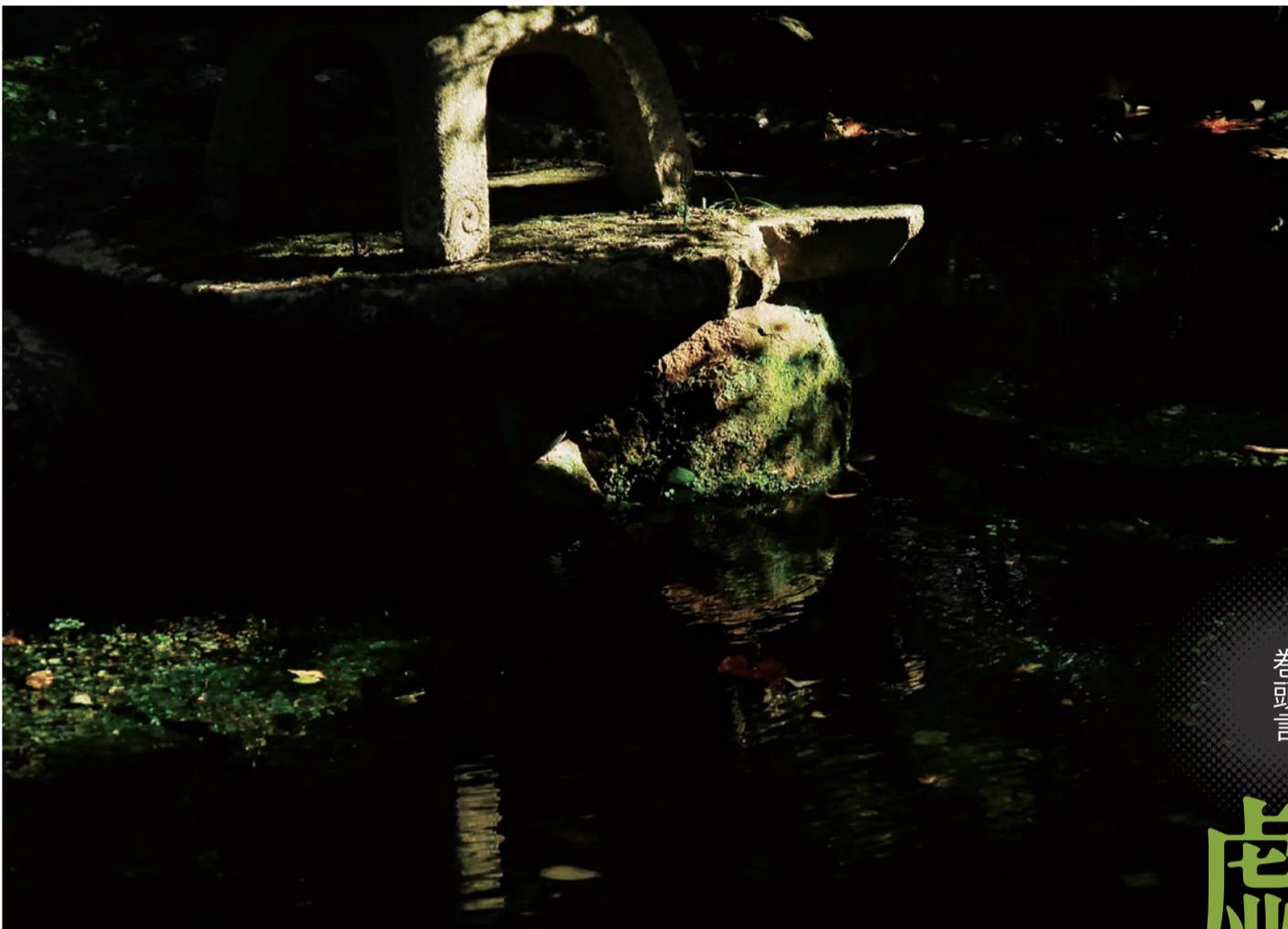


あかい新聞

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ <http://www.akai-shinbunten.net> <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861

企画・制作：株式会社 新聞ビル



老春

老春

ろうしゅんの
たわごと

巻頭言

戯言

2006 「王様の耳は、ロバの耳」

送不可能。という題名の映画を観た。憲法で保障されている言論の自由が影が忍び寄っている。テレビに登場するジャーナリストは真実を語っていないか、語れない。報道の自由で日本は後進国だと指摘されている。

そうした中であって注目されているジャーナリストが八十九歳の田原総一朗氏だ。彼の取材力、追求力には目を見張るものがある。今回、この映画は小泉純一郎元首相に切り込む田原総一朗氏の対談である。テーマは小泉氏がライフワークとして取り組んでいる「原発ゼロ」の訴え。小泉氏は現役の時は「原発推進」だったが、政界を退いてから「原発の安全、クリーン、低コストの神話は、すべてウソだった。私はダメされていた」と説得力がある内容を展開。

映画にとくに目新しさはないが、非常にうまく仕上がっている。高齢のふたりがこの難しいテーマに取り組んでいる姿には敬服したい。原発は廃棄物の貯蔵所の建設の見通しが立たないので、やがて行き詰まることが目に見えているのに責任者は「ロバの耳しか持たない」と、痛烈に批判している。地震大国の日本で想定していなかったとは、二度と許されない。

文・写真 岡田清治(一九四二年生まれ)

FAX: 0569-34-7971
メール: hiromitsu@akai-shinbunten.net

読者の方々の感想、意見、コメント等を上記のFAXかメールでお寄せください。一緒に考えます

おかだ せいじ SEIJI OKADA
岡田 清治

1942年生まれジャーナリスト(編集プロダクション・NET108代表)
著書に『高野山開創千二百年 いっぱんさん行状記』『心の遺言』
『あなたは社員の全能力を引き出せますか!』『リオンで見た虹』など多数



戯言

私の出会った作品 (85) 杉本武之

◎太宰治(その1)
太宰治が美容師の山崎富栄と玉川上水で投身自殺してから75年が経ちました。

この天才作家は、明治42年(1909)6月19日に青森県北津軽郡金木村で生まれました。本名は津島修治。当時、津島家は県下有数の大地主で、銀行も経営し、父の源右衛門は有力な県会議員でした。広大な家屋敷に住んでいました。

なお、私の母も、同じ年の12月に知多半島の亀崎(現・半田市)で生まれました。

最近、久しぶりに太宰治の主要な作品を読み直した。60年以上も前、大学生だった私は、京都の下宿で彼の作品を夢中になって読みました。それ以来の再会でした。

「久しぶりですね」という感じで、私は太宰治に対して

ました。「大学を卒業してからは、何となく文学的な世界から離れていて、長い間小学校の教師なんかもしていたので、あなたの作品を読む機会が無かったです。84歳になって、また読み始めましたよ。本当に懐かしいな。あなたは39歳で死んでしまいましたね。あなたと同じ年に生まれた私の母は百歳まで生きましたよ。あなたにはもう10年は生きてほしいな。あなたは、本物の天才でした。私は、文学の道に進まなくてよかったと思います。あなたの光りに輝く天分に恵まれていなかったのですから……」

◎昭和14年の太宰治
昭和14年(1939)という年は、太宰治にとって極めて重要な年でした。

この年の1月8日、30歳の太宰治は、東京の井伏鱒二の家で、井伏鱒二夫妻の

媒酌のもとに、石原美知子と結婚式を挙げました。なお、同じ年の5月に私は生まれました。

この時期までの太宰治の生き方は陰惨なもので、すでに4回も自殺を企てていました。



『太宰治夫妻』

の11月、銀座の女給田辺あつみと鎌倉の海岸で心中を図ったが相手の女性だけ死亡した。3回目は、昭和10年3月、大学を卒業できなかったことが決定し、鎌倉山の中腹で縊死を図ったが未

遂に終わった。4回目は昭和12年3月、内縁の妻・初代の過失を知って衝撃を受け、群馬県の谷川温泉でカルモチンによる心中を図った。そして、6月に初代と

昭和14年前後の彼の略年譜は次のようです。
昭和13年9月、師の井伏鱒二の招きで、山梨県河口村御坂峠の天下茶屋に行き滞在した。井伏鱒二を紹介して、甲府市の石原美知子と見合いをした。11月6日、彼女と婚約。

昭和14年1月8日、東京の井伏家で、井伏鱒二夫婦の媒酌で結婚式を挙げ、甲府市の御崎町に新居を構えた。9月、甲府を引き払い、東京の三鷹下連雀に転居した。この年、「富嶽百景」「女生徒」「黄金風景」などを発表した。

昭和15年2月、「駆け込み訴え」を中央公論に発表した。5月、「走れメロス」を『新潮』に発表。6月、『思出』を人文書院より刊行した。

今から、名作「富嶽百景」を中心にして、太宰治が再び

生ずる契機となった石原美知子との結婚について書いていきます。

石原美知子は、山梨県立甲府高等女学校から東京女子高等師範学校(現・お茶の水女子大学)に進学し、卒業後、山梨県立都留高等女子学校の教師として地理と歴史を教えていました。彼女の父親は東大地質学科の出身で、幾つかの県で中学校長を歴任しました。

兄も東大医学部で学んでおり、彼女は秀才ぞろいの家環境で育ちました。太宰治との縁談の話があった時には、父親も兄もすでに亡くなっていました。

なお、私の妻の母親は、甲府の生まれで、甲府高等女学校に在学していた時、同級生だった石原美知子と非常に親しくしていました。

「富嶽百景」は、昭和14年に『文芸』の2月号、3月号に掲載されました。こんな内容の小説です。

昭和十三年の初秋、思いをあらたにする覚悟で、私は、かばん一つだけ下げて旅に出た。甲府市からバス

に揺られて1時間。御坂峠へたどり着く。海拔千三百メートル。この峠の頂上に、天下茶屋という茶店があった。井伏鱒二氏が初夏の頃から、この二階に籠もって仕事をしていた。私は、それを知ってこへ来た。井伏氏の仕事の邪魔にならないようなら、隣室でも借りて、しばらく滞在しようと思っていた。

数日後、井伏氏は御坂峠を引き上げることになった。甲府で、ある娘さんと見合いをする事になった。井伏氏に連れられて娘さんの家へ行った。井伏氏は無難な登山服である。私は、角帯に、夏羽織を着ていた。

母堂を迎えられて客間に通され、挨拶して、そのうちに娘さんも出て来て、私は、娘さんの顔を見なかった。井伏氏と母堂とは、おとな同士のよもやまの話をしていた。ふと、井伏氏が「おや、富士」とつぶやいて、私の背後の長押を見上げた。富士山頂大噴火口の鳥瞰写真が、額縁に入れられて、掛けられていた。私は、それを見

母堂は言った。「あなたが愛情と、職業に対する熱意さえお持ちならば、それで私たちは結構でございます。私は、お辞儀するのでも忘れて、しばらく呆然と庭を眺めていた。目の熱いのを意識した、この母に、孝行しようと思った。

結婚の話が好転して行った。結婚式も、井伏氏の家ですべて済ませようになり、私は人の情けに、少年のごとく感奮していた。

寒くなってきたので、私は山を下りた。甲府の安宿に泊まった。安宿の廊下から富士山を見た。山々の後ろから、三分の一ほど顔を覗かせていた。酸漿(あじま)に似ていた。

ある日、郵便局からバスに乗っていた時、隣に座っていた老婆が「おや、月見草」と言って、路傍の「一カ所」を指さした。富士山と立派に向き合って、みじんも揺るがず、けなげにすくすく立っていたあの月見草は、よかったです。富士には、月見草がよく似合う。

結婚しても私の家からの助力が期待できないことがはつきりしたので、相手の家に行つて説明しようと思つた。私は客間に通され、娘さんと母堂の前で事情を説明した。

「杉本武之プロフィール」
1939年、碧南市に生まれる。京都大学文学部卒業。翻訳業を経て、小学校教師になるために愛知教育大学に入学。25年間、西尾市の小中学校に勤務。定年退職後、名古屋大学教育学部の大学院で学ぶ。
趣味：読書と競馬

母堂は言った。「あなたが愛情と、職業に対する熱意さえお持ちならば、それで私たちは結構でございます。私は、お辞儀するのでも忘れて、しばらく呆然と庭を眺めていた。目の熱いのを意識した、この母に、孝行しようと思った。

この指とまれ (328) 氏原朝信

昭和55年度常滑西小学校二年二組「どろんこ」
班日記から学習(4)
— 図工 —

1月30日(金) A・純子③
図工の時間、大きいのがよ。紙に「どろんこ」のお話をかきました。おにの絵をかきました。おにの絵をかいていたら、みんな「すごいなあ」「じゅんこちゃんの絵、すごいなあ」と言っていました。

1月21日(水) H・朋幸③
休みの時、サッカーをして、ボールがゴールに入りそうだったけど、けられてしまいました。たのしかったです。

1月28日(水) H・貴子④
休みの時、サッカーをしました。和雄くんや真二くんはたくさんボールをけつたけど、私は3回か4回くらいしかけられませんでした。

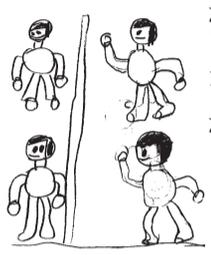
2月11日(火) W・達也⑥
運動しようでリレーをしました。みんなはときどき早くはしることがあって、ぼくたちの班はかたまりまけたりしました。

2月13日(金) I・亜起①
五時間目に休むをしました。土ひょうを書いてもらうことができました。私は水野さんとやりました。力いっぱいやったのに土ひょうから足が出てしまいました。

0・明子②
すもうをしました。私は桂子さんとやりました。はじめは桂子さんのほうがまけそうだったけど、私の足を出したので私がまけてしまいました。だけど、とてもおもしろかったです。それと桂子さんとやってもうれしかったです。またやりたいです。

2月6日(金) M・和久⑧
図工の時間に絵のびをぬつてからみんなの絵を見ていたら、弘樹くん

1月21日(水) H・朋幸③
休みの時、サッカーをして、ボールがゴールに入りそうだったけど、けられてしまいました。たのしかったです。



1月28日(水) H・貴子④
休みの時、サッカーをしました。和雄くんや真二くんはたくさんボールをけつたけど、私は3回か4回くらいしかけられませんでした。

2月11日(火) W・達也⑥
運動しようでリレーをしました。みんなはときどき早くはしることがあって、ぼくたちの班はかたまりまけたりしました。

料理研究家 長澤晶子のSPEED★COOKING!

簡単! ゆで豚と野菜の豆板醤サラダ

ピリ辛の冷たいサラダで食欲増進!暑い夏を乗り越えましょうね★

【4人分】

材料	豚薄切り.....300g	熱湯.....適量
A	酒.....大さじ½	塩.....ひとつまみ
	サラダオイル.....大さじ½	醤油.....大さじ2
B	大根.....½本	酢.....大さじ2
	(皮をむいて5mmのいちょう切り)	胡麻油.....大さじ1
	きゅうり.....2本	砂糖.....大さじ½
	(縦半分にして種を取り1cmの斜め切り)	豆板醤.....小さじ1

作り方

- ① Aをボールに入れ、もみこんでおく。
- ② Bの野菜はそれぞれ分量外の塩を振り、しんなりしたら、水で洗い、しっかりと水気をペーパータオルでふきとる。
- ③ Cを沸騰させ、①を入れ、色がわるまでゆで、ざるあげし、水気をしっかりとペーパータオルでふきとる。
- ④ ②③をボールに入れ⑥をかけて混ぜ合わせ、ラップをし冷蔵庫で冷やす。
- ⑤ 皿に盛り、あれば、糸唐辛子などを添える。

常滑市民文化会館

ホール

▼常滑シンフォニックウィーンズ 第41回ファミリーコンサート 十六日(日) 開場 午後二時十五分 開演 同二時(〜同四時) 入場無料 問合せ 常滑シンフォニックウィーンズ 435244(関)

▼愛知県吹奏楽コンクール 知多地区大会 A編成の部 二十七日(木) 開場 午前九時十五分 開演 同十時(午後五時) 入場料 八百円 問合せ 愛知県小中学校吹奏楽連盟知多支部(横須賀中学校) 322241(広田)

▼愛知県吹奏楽コンクール 知多地区大会 B編成の部 二十八日(金) 開場 午前九時半 開演 同十時(午後二時) 入場料 八百円 問合せ 愛知県小中学校吹奏楽連盟知多支部(横須賀中学校) 322241(広田)

▼あなたをギャラリー 展示室

▼中美水彩画展 六日(木) 午前九時〜午後九時(最終日同四時) あなたのギャラリー 問合せ 中美会 348449(中村)

▼写生大会作品展示 十九日(水)〜二十日(金) 午前九時(初日同十時)〜午後九時(最終日同四時) あなたのギャラリー 問合せ 愛知県労働者福祉協会知多支部 214032

▼常滑市文化協会 文化ふれあい体験広場 二十二日(土) 午後二時半〜第一展示室 問合せ 常滑市文化協会事務局 352920

◎とこなめ陶の森資料館

▼第一回「青・蒼・碧の道」具展 八日(土)〜十日(日)

◎とこなめ陶の森

▼陶芸研究所 藤井規雄の世界人と陶つくる喜び 土に生きる。〜十七日(月・祝) 無料

▼企画展 常滑の茶道具 水指 二十一日(土)〜三十日(日) 無料

◎常滑市体育館

▼第63回全知多小中卓球大会 一日(土)

▼常滑市民パドミントン大会 二日(日)

▼ふるさとの歌・踊り講習会 五日(水)

少人数での家族葬専用ホール

大阪屋リビング 常滑北

誠意を込めて安心のお手伝い

大阪屋葬祭

TEL0569-35-4949

●わーくりに知多協力店

知多の新鮮たまご 発酵ケイフン

(有)知多エッグ

知多郡武豊二ツ峯380 TEL0569-73-6341

れあい体験広場 二十二日(土) 午後二時半〜第一展示室 問合せ 常滑市文化協会事務局 352920

◎とこなめ陶の森資料館

▼第一回「青・蒼・碧の道」具展 八日(土)〜十日(日)

◎とこなめ陶の森

▼陶芸研究所 藤井規雄の世界人と陶つくる喜び 土に生きる。〜十七日(月・祝) 無料

▼企画展 常滑の茶道具 水指 二十一日(土)〜三十日(日) 無料

◎常滑市体育館

▼第63回全知多小中卓球大会 一日(土)

▼常滑市民パドミントン大会 二日(日)

▼ふるさとの歌・踊り講習会 五日(水)

